

皆さん、こんにちは。開会説教の聖書個所の箴言 29 章 18 節は、最近の訳では「幻なければ民は墮落する」(新共同訳)「幻なければ民はちりちりになる」(協会共同訳)、「幻なければ民は好き勝手にふるまう」(新改訳 2017)とどれも腑に落ちないので、昔から聞き慣れた「幻なければ民は滅びる(Where there is no vision, the people perish)」(KJV 訳)と題してお話しさせていただきます。ただ今讚美した讚美歌第二編142番の「若きわれらは」は中世ヨーロッパの学生歌として知られている Gaudeamus Igitur (それゆえ、楽しむうではないか)です。オリジナルの歌詞は、讚美歌とはかなり異なります。1 節「諸君、大いに楽しむうではないか。私たちが若いうちに。素晴らしい青春が過ぎた後に、苦難に満ちた老後が過ぎた後に、私たちはこの大地に帰るのだから。」2 節「私たちの人生は短い。短くて限られている。死はすぐにでも訪れる。残酷にも私たちはこの世から去らねばならない。誰も逃れられない。」4 節「私たちの大学、いつまでも。私たちの先生、いつまでも。私たち学生、いつまでも。すべてのどんな人にも、常に栄えあれ!」(3、5~10 節省略)。

大学は 12 世紀の修道院から始まりました。修道院のリベラルアーツ教育の上に、ボローニヤでは法学部、サレルノでは医学部、パリでは神学部の専門教育が始まり、やがて基礎教育のリベラルアーツ学部と専門教育の法学部・医学部・神学部の 4 学部体制の大学となりました。それは、カントの時代の 18 世紀まで 4 学部体制に変わりありませんでした。当時の大学町(タウン)と大学(ガウン)は、学生がしばしば問題を起こして衝突し、角を突きあうような関係にありました。

宗教改革とはほぼ同時期に天文学や物理学・化学などの分野から科学革命が起こり、19 世紀にそれらを実用化する産業革命が起こりました。それに伴い大学の中に最初に研究所を取り込んだベルリン大学が 19 世紀に出現して、大学の使命は教育と研究の 2 本立てとなりました。やがて 20 世紀には人類の知的遺産を伝える教育中心の大学と科学研究とその応用実用化を中心にした研究中心の大学とに次第に分かれていきました。

日本のキリスト教大学は、「真理はあなたがたを自由にする」(Veritas liberabit vos)というヨハネ福音書 8 章 32 節の言葉を標語に掲げた中世以来のリベラルアーツ教育の伝統を受け継いでいます。すなわち、私たちが受け継ぐ大学の理念は、ジョン・ヘンリー・ニューマンの『大学の理念』(The Idea of a University)です。あるいはそれをコンパクトにしたジョン・スチュアート・ミルの『大学教育について』、20 世紀のオルテガの『大学の使命』、ペリカンの『大学とは何か』です。研究を第一としたヤスパースの『大学の理念』やガダマーらの『大学の理念』ではありません。

問題はここからです。現代の日本は、世界最速のスピードで人口減少・少子高齢社会を迎えています。同時に産業革命に続く情報革命・デジタル革命が進んでいます。大学は、教育と研究に加えて、地域貢献が求められています。30 年前ですと公開講座を開き、地方自治体などの役職や委員を務めて、知見を地域社会に還元することで済んでいたのですが、今ではこのような地域貢献の比ではない格段のレベルで学生教職員という大学全体の地域貢献が求められています。

現代のキリスト教大学に求められているのは、キリスト教リベラルアーツ教育に基づき、「地球規模で考え、地域社会に貢献する」(Think globally and act locally)ことで地域社会の拠点となることです。キリスト教大学は日本社会の中で外国語教育を始めとして国際貢献教育では先駆的な働きをしてきました。ところが今求められているのは、それと同時に、地域社会に貢献する大学です。最も肝心なことは、大学がある地域社会(タウン)と大学(ガウン)が共に共存共栄する win-win の関係を構築していくことです。これが中世以来のタウンとガウンの関係と最も異なる点です。これには前例やモデルはなく、それぞれの大学が置かれた地域社会の特性と現状に応じて構築していくことが求められています。

そのためには、第一に、地域貢献に特化した独自のビジョンを描く必要があります。また建学の精神を地域貢献という視点から再点検をする必要があるかもしれません。既に中長期計画を建てておられると思いますが、そこにおいても点検し直す必要があるかもしれません。第二に、ビジョンや中長期計画に従って、毎年達成度評価をして中長期計画達成に基づいた短期計画の達成度を評価する必要があります。昨年 11 月に中小規模連携協議会で敬和学園大学の地域貢献の具体的な実践例を報告させていただきましたのでここでは繰り返しません。皆さまの法人におかれましても、法人内の結束力を強めて、中長期的な視点で地域貢献のビジョンが具現化されていくことを心からお祈り申し上げます。(山田 耕太)